



中学受験：こころのケア
『落ちても大丈夫！』

もくじ

- 不合格になったら
- 不合格時の対処法(対外部)
- 不合格時の対処法(子ども1・2)
- 不合格の責任は？
- 子どもの特性
- 不合格時の対処法(親)
- 勉強は楽しい
- 塾にお任せ
- 受験と家族
- 人生における勝利の方程式
- いい大学のメリット
- 中学、高校、大学
- 有名大学入学への秘策
- 実社会において
- 最高の教育
- 教育の目的
- それでも心配なあなたに
- 最後に



不合格になったら

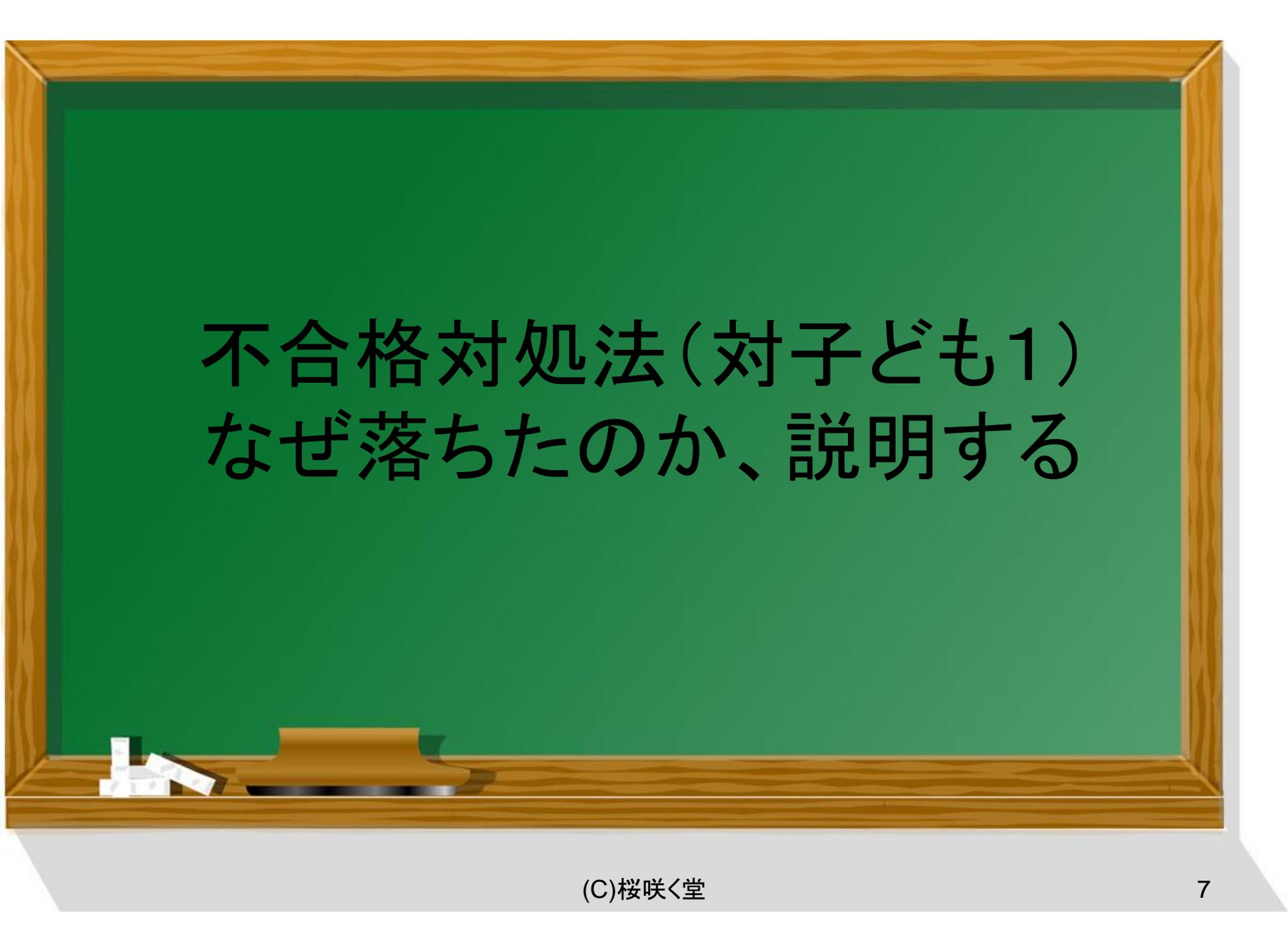
ちょっとだけ、その辛さを噛み締める

- なかなか普通の人が出来ない、
貴重な経験です(→将来の話にネタに)。
- 親子共々、ちょっとだけこの辛さを正面から
噛み締めて覚えてください(→将来のバネに)
- はい、終わり。もういいです。
「忘れてください」と言っても忘れられないと思います。
だから胸の奥にしまっておいてください。
それで十分です(→焦点を将来に)。

不合格時の対処法（対外部）

堂々としていること

- 周りに隠すことが最悪の対処
 - なるべく早く、こちらから「運(ご縁)が無かったよ」と宣言すること。
 - 子どもは親の言動を凝視しています。
堂々とした姿勢を見せてください。
 - 次のスタートを切れる環境作りを！
 - 区切りをつける意味でお疲れ様会等を開く
- **子どものいない場所でも、絶対犯人探しや非難(責任)の話は一切しない。**



不合格対処法(対子ども1)
なぜ落ちたのか、説明する

合格＝準備＋運

- 合格するためには準備と運の2つの構成要素がある。
 - － 準備
 - 範囲をくまなくやる。
 - 苦手な箇所をなくす。
 - － 運
 - 自分の得意な所が出題される。
 - 不得意な所が出題されない。
- 入学試験は時間にして40～50分の一発勝負です。そんな短時間で数年にわたる受験勉強の成果を正確に測れるわけがありません。どうしても運・不運が出てきてしまう。

☆親御さんには是非、これを子どもに伝えてください。
努力の重要性と運という存在です。

不合格対処法(対子ども2) 次の一歩へ

次に何をすべきか？

- 中学受験をまじめにやっていたら、地元の公立中学に行っても、勉強の貯金が十分ある。
- スタートラインで既に大幅にリード！
- **英語だけはしっかりやる！**
- 高校受験では中学受験で選んだ学校よりもレベルの高い学校に合格する確率が高い。

☆ 高校受験は君の独壇場となる(私の例を！)



敢えて問う！
「不合格の責任は誰？」

決まっています！

- 親が受験の本質を理解する(8ページ参照)。
- 親が子どもの勉強しやすい環境を作る。
- 親が子どもの動機付けをさせる。
- 最後に
 - 子どもが受けたい学校を受験させたか？
 - イエスなら、子どもの復活は早いです。自分で決めたことですから。
 - ノーの場合、外面と内面は違います。これからは、子ども主導に。
 - 親の見栄は無かったか、どうか？



子どもの特徴とは？

子どもの特性

- 子どもは安易な方、楽な方に行きたがる。
 - 子どもに将来のことを考えさせることは難しい。
 - 塾という競争環境にいただけで、自然とがんばれる子がいるが、大半はそうでないタイプ。
 - なぜ受験をするのか(親の体験等)、親子で話をする
 - 一緒に、私立中学を訪問してみる
 - 飴とムチ
- ☆親が一緒にうまく導いてあげる必要がある。

不合格時の対処法 (対親 = 自分自身)

犠牲

- 塾の授業料、受験費用その他もろもろ大きな費用がかかりました。敢えて言います、これからの考え方次第で、ドブに捨てたことにも、やはり子供のためになったことにもなります。
- でも、何が間違っていたのでしょうか？その点検をせずして、次の段階（高校、大学受験そして就職）へ進むのは危険なことだと思います。一度、これ以降のページを読んで過去を振り返って、前に進んでください。



勉強は楽しいもの、である

勉強は楽しいもの

- 分からないことが分かるようになる、新しいことを学ぶ、これほど楽しいことはない。
 - 塾で分からなかったら、是非授業の後に子ども自らが先生に尋ねる習慣を作ってください。分からないままにせず、堂々と教えてもらおう。なぜなら、わたし達がお客様であり、お金を払っているのだから。
 - 授業が分からないまま、塾や学校の教室で長い時間イスに座っていることほど苦痛なことはない。
- ☆ 社会に出たらもっと重要。
いち早く仕事を覚えるには尋ねるしかない。
「聞くは一時の恥、聞かぬは一生の恥」



塾にお任せは失敗のもと
(私のケースでした)

塾の弊害

- 塾に行くだけで、受験生のみならず親までも「何か勉強を十分した」と勘違いしてしまう。
 - 子どもの塾滞在時間と親の満足感は正比例、でも子どもの実力養成との相関は意外と低い。
 - 自宅学習の徹底
(予習、復習、毎日曜日のテストの見直し)
 - 子どもの自主性なくして、合格なし。
- ☆塾は脇役、主役は子どもであり、そしてあなた、家族は伴走車。

受験と家族

受験は家族で楽しむもの

- 受験は強制ではない。
- 受験は子どもの自主性。
- 家族で一緒に楽しむ姿勢。
- 時には、一緒に問題を解いてみる。
- 時には、一緒に悩んでみる。
- 一緒にいろいろな私立の学校に足を運んでみる。

☆ 受験は家族で役割分担すればいい。
例えば、ママがお弁当 & お夜食兼お迎え係で、
パパが進路指導兼癒し係という風に。



以前の人生における
勝利の方程式は・・・

「いい大学＝いい人生」の時代は終り

- いい大学→いい会社→一生安泰はもう終り。
- いい会社は上記のような考えの学生を求めている現実。
- いい大学出身の学生しか採用しないという企業も確かに存在する事実。
- しかし、いったん入社すれば実力の社会。

☆合格した学校で何をやるかが大切。



いい大学のメリットは何？

いい大学のメリット

- 人脈(OB・OGの存在)
- いい教授、いい授業、いい仲間。
- 就活中に大学名で不利になることはない。
 - プレーセーフで言えば、国立と早慶まで。

☆伝統も歴史もある(長く存続するということは大変なこと)。



中学、高校、大学の
どれが大切？

大学が大切

- 「どこの中学、高校ですか？」などと誰も質問しない。
- 日本の今の現状、いい会社に入るのがいい。
 - いい会社とは長く業績のいい会社
→素晴らしい人材が多い→朱に交われば赤くなる
- いい会社に入るためには、いい大学に入る。
- いい大学でなくても、大学時代特筆すべきことがあれば、勝負できる。
- なぜなら就職で聞かれること：
 - 大学で何をしてきましたか？（一芸に秀でる。これが素晴らしいければ、大学は関係ない。XX日本一等々）
 - 弊社志望理由は何ですか？
特に前者。

有名大学入学への秘策

「高校留学」

- 高校1年留学

- 1浪と同じ(単位が認められれば3年で卒業も可)。
- 英語が完璧。
- 世界を肌で感じる。サバイバル上手。「自信」。
- 帰国子女枠・AO入試で大学入学も有利に。
- 同世代より、より大人の感覚が身に付く。
- 注:最初の数か月は超辛いので、あくまで子どもの自主性。できれば高校でそういう留学機会を提供されているのがベスト。留学業者はピンキリ。



学校の勉強って実社会で
役に立つの？

余り、役に立ちません (理系、研究職を除く)

- 読み書き計算ができれば、OK。
- 英語ができれば、ベター。
- 勉強ができると社会で仕事ができるは全く別物。
- あとは人格であり、人間力がものを言う世界。

☆そもそも学問とはすぐに社会で役に立たない、
より高尚なもの。
すぐに役立つモノはすぐ廃れる運命。



最高の教育とは？

実は灯台下暗し

- 親の働いている姿を見せること
 - 是非、会社に連れて行ってあげてください。
- 「働く」ということはどういうことなのか、最高の生の教材がそこにあります。
 - ぜひ子どもにあなたの仕事の話をしてください。
- 子どもは何かを感じ取ります、そして動き出すかもしれません。

☆長い目で見ると、「カエルの子はカエル」



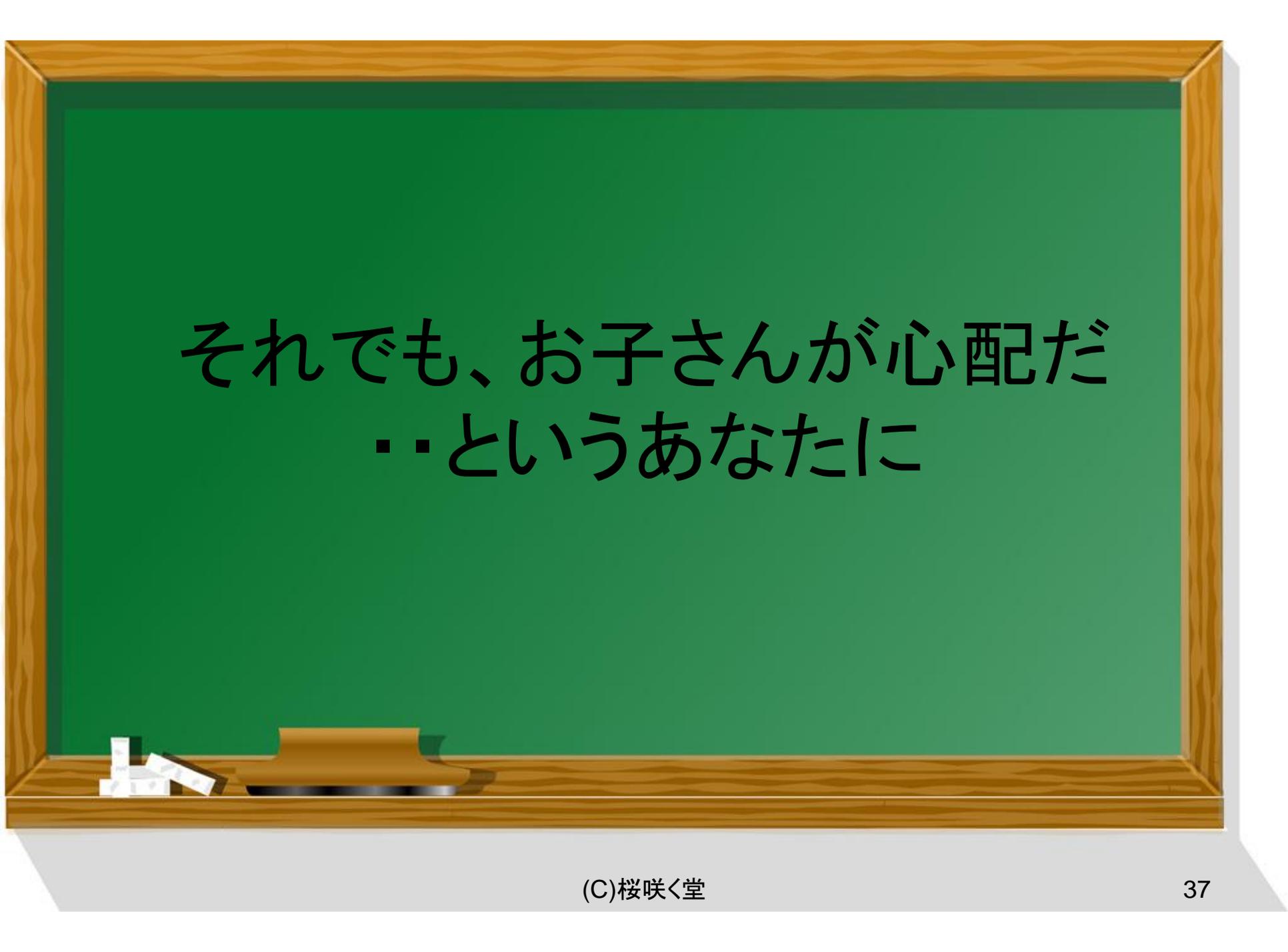
教育の目的とは？

ズバリ、・・・

- 子ども一人一人の特性を見極める。
- それにあった職業選択を行なう。
- その仕事を通して人(社会)の役に立つ喜びを感じる。

☆自分の好きなことを見つける

＝自らのアイデンティティ(役割)を知ること。



それでも、お子さんが心配だ
・・・というあなたに

大丈夫です

- 好きなことが見つからなくても平気です。
- なぜなら、社会の仕組みとして、会社は社員に向いている仕事しか与えません。
- 自分で気付かなくても、他人は冷静に判断、評価してくれています。

☆誰かがお子さんの一生懸命な姿を必ず見えています。

最後に

ここからがスタートです。過去は変わりません。
今からが新しい人生の1ページです。

よく、ケンカで「負けるが勝ち」という言葉を耳にします。人生も早い段階で負けることを体験することが後々の人生にとっていい教訓になります。

いくらでも挽回可能です。

何度でもやり直せます。

だから、「落ちても大丈夫！」